

すべての子どもが生きられる、
リラックスした社会をつくる

Platform

特定非営利活動法人プラットフォーム

VALUE

子どもの力を信じる

MISSION

0~10歳の子どもの命と心を支える
仕組みをつくる

VISION

虐待など困難な家庭環境でも
すべての子どもが生きれる、
リラックスした社会



【団体名称】

特定非営利活動法人プラットフォーム

【活動方針】

子どものエンパワメント

地域の大人ができることの可視化と実践の機会の提供

地域を起点とした多セクター連携による仕組化

【事業内容】居場所事業、訪問看護事業、多世代交流事業、相談事業、中間ケア事業、啓蒙啓発事業

【所在地】鎌倉市御成町3-10鎌万ビル 2F A

【設立年度】2021年5月14日

【役員】理事長 北川幸子、宮本理希、小林祥子、テンプル直美、監事 根本雄司

課題

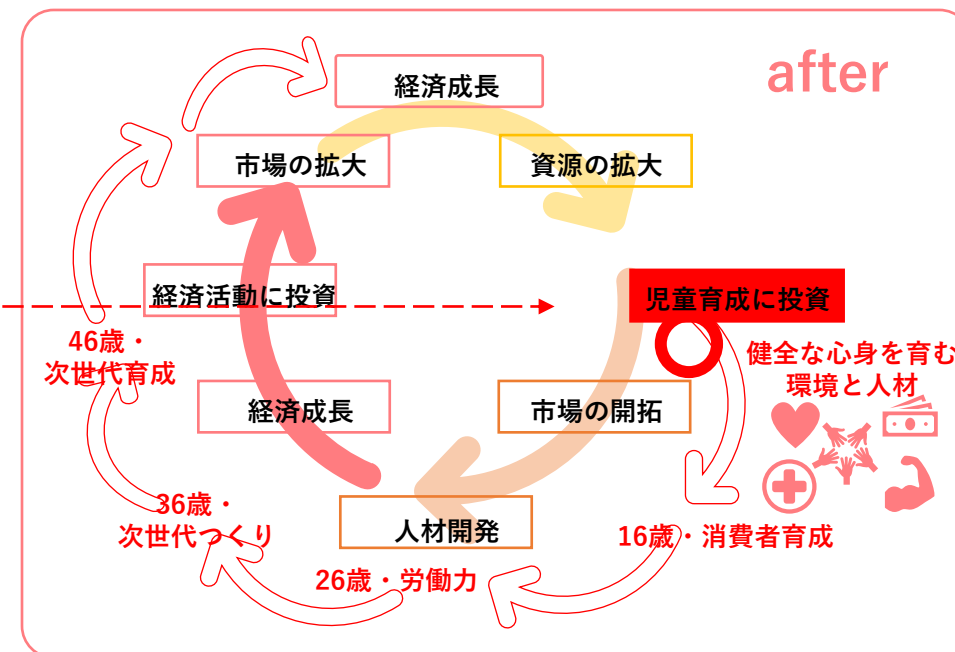
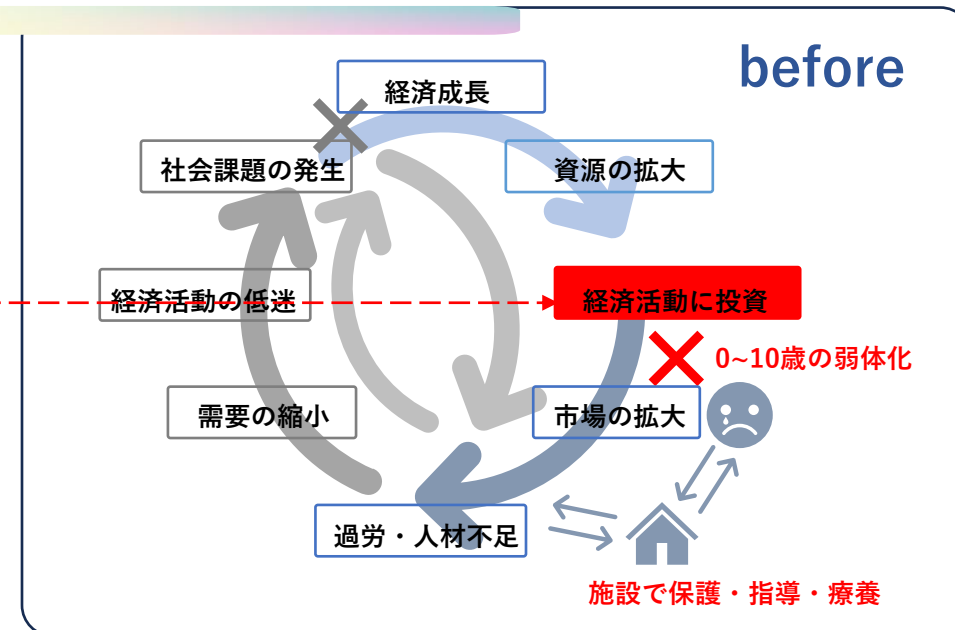
- ・ 児童虐待、精神疾患、ヤングケアラー、貧困…
- ・ 誰にも気づかれず、声をあげられない子どもがいる
- ・ 家庭も学校も対応ができない、子どもの困難がある



全国の14歳以下の人口は減少しているにもかかわらず、
困難な環境にいる子どもの数は増加の一途を辿っている。

Theory of change

幼少期の子どもの成育を支え、
社会活動を活性する。
レバレッジポイントは、
「0~6歳の成育環境の整備」



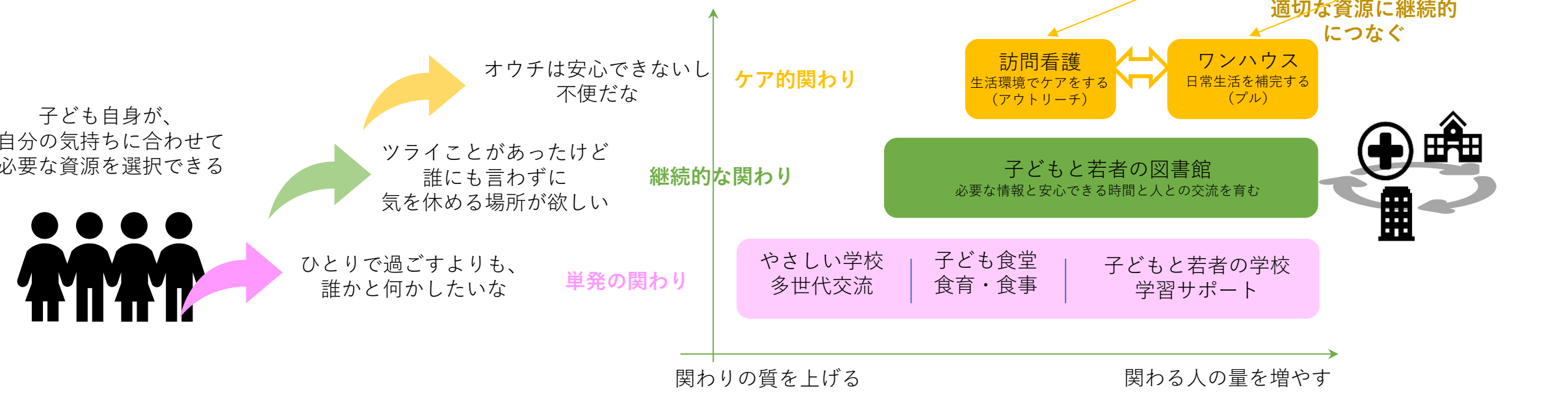
活動の全体像

各活動の構造

あらゆる子どもの「地域で暮らす」を大切にする、
「社会の仕組み」と「地域の仕組み」のデザイン

- 1. 低年齢の子どもでも、自身で選択ができる「支援ばくない」社会資源を幅広く用意。
- 2. 地域密着型のソーシャルワーク機能を備え「地域」と「行政・専門機関と」のハブになり、子どもを適切な資源に適切につなぐ。
- 3. 子ども自身が知っている人や環境の中で、段階的な支援を安心して受けられる環境を実現。

各活動の機能と役割				
「早期発見・早期ケア・継続ケア」 機能を分けて持続的な仕組みをつくること。				
	地域との つながり	早期発見	早期ケア	継続ケア
ワンハウス			✓	✓
訪問看護		✓	✓	✓
子どもと若者の 図書館	✓	✓		✓
やさしい学校	✓	✓		



子どもとの関わり

教育機関との関わり

保護者・事業者との関わり

多世代の関わり

中学校の協議委員
委員長

手作り縁日
2日間

個別ケース対応
小学生・中学生

在宅の子どもサポート座談会
保護者＋医療従事者

小学校の町探検
2回目（年1回）

中学校の支援会議への参加
各月～月2回

やさしい学校
全20コマ

子ども食堂
通常版7月まで4回

子ども食堂
子ども版9月から6回

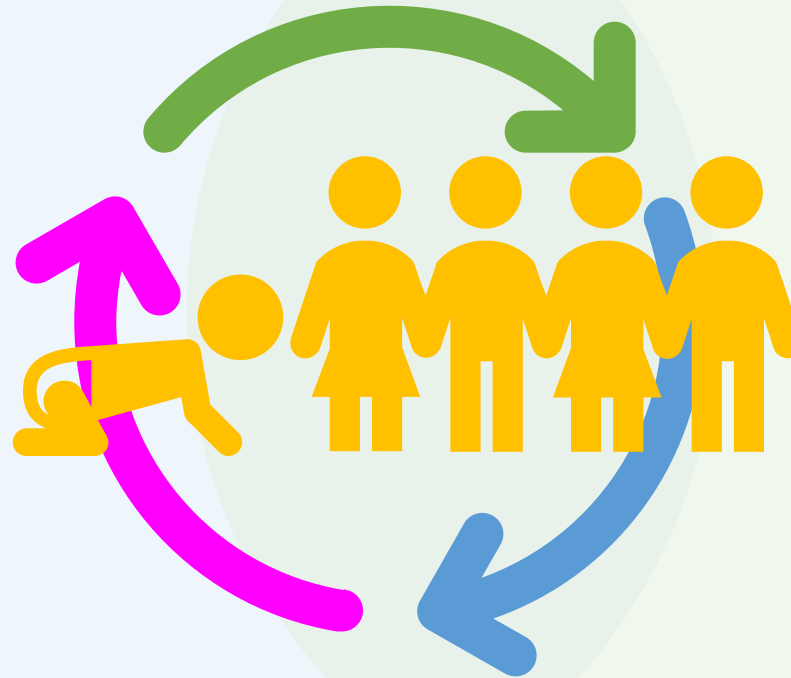
教員と事業者をつなぐ会
田浦エリア

こども新聞購読

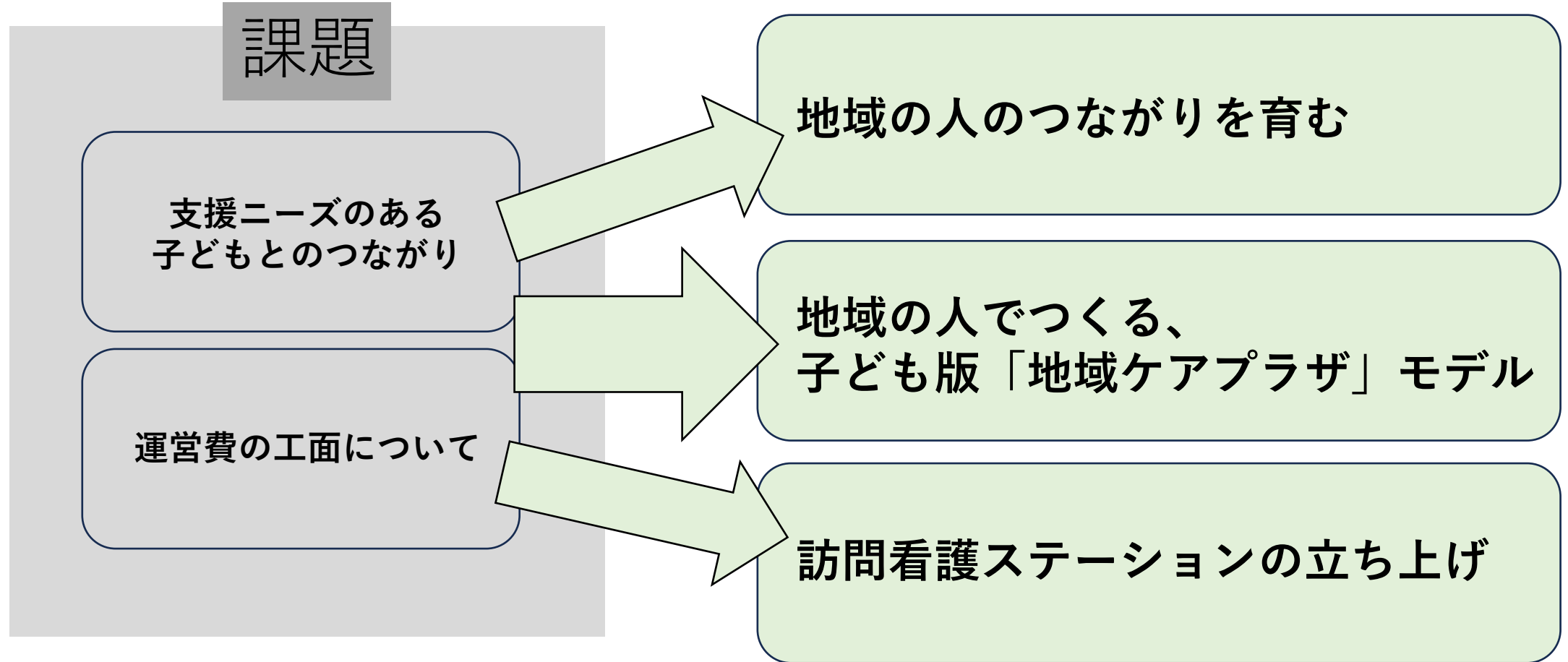
図書館
週2～4日

子どもが主体になれる「支援」は、
子どもとの「良好な関係性」の上に成り立つ

「支援」のかかわり



「日常」のかかわり



1 地域の「見守り」から、地域の「ケア」へ

1. 地域住民参加型の場づくりを通じて、子どもが頼れる人を増やす
2. 地域で出来る「ケア」を再定義し、支援未満の子どもを支える

2 日常的な関わりから、緊急時の保護まで、 一気通貫の支援構成

子どもの意思で自由に出入りができる気軽な関わりから人間関係を育み、いざという時に、信頼できる人の元で安全を確保することが出来る。子ども目線の支援構成を構築。

地域に埋もれている子どもにリーチし支えるために必要な3つのポイント

3 柔軟性と公共性と専門性を両立する事業構造

①生活を起点とした地域活動と、②法律に則した行政事業、③専門的な支援を掛け合わせて、潜在的で変化の激しい子どもの根深い課題に、早期かつ質の高い対応をする事業構造を構築。